第６回　地区別懇談会【④温泉地区】

日時：令和3年9月15日（水）18:30～
場所：町内会長宅

次 第

１．開会挨拶

２．地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明

（１）地区別懇談会の振り返りと情報提供【資料１】【資料2】【資料3】

（２）温泉下林地区　復興まちづくり計画（案）　について

①温泉下林地区　復興まちづくり計画（案）　【資料4】

３．地区ごとの話し合い

（１）復興まちづくりの具体的イメージや手法案について

〇まち歩きで現地を確認してみて、あらためて気づいたことは？

〇取組み方針、具体の取組み、イメージの更新案について、問題はないか？

〇地区全体の活性化に向けて重点的に協働して取組むべき施策やアイデアは？

（２）今後の進め方、次回以降について

４．全体共有

５．その他

６．閉会挨拶

【資料】

・資料１：地区別懇談会だより第３号
・資料２：人吉市復興まちづくり　進め方と本日の内容について
・資料３：地区別懇談会中間報告会まとめ
・資料４：温泉下林地区　復興まちづくり計画（案）

地区別懇談会だより　Vol.3　温泉下林地区

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会（温泉町:第４・５回、中林町・下林町:第４回）』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、**地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」**として位置づけ、それぞれの地区ごとに**「地区別懇談会」**で話し合いを進めています。

温泉下林地区の対象地区は、中林町、下林町、温泉町です。

◆第４回地区別懇談会（温泉町、中林町・下林町）

1　**治水対策に関する国・県からの説明（温泉町のみ）**
2　**地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明**
　・地区別懇談会の振り返りと情報提供
　・懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向案（更新案）について
3　**地区ごとの話し合いと全体共有**
　・復興まちづくりの具体的イメージや手法について
4　**今後の進め方について**

◆第５回地区別懇談会（温泉町）

1　**地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明**
　・地区別懇談会の振り返りと情報提供
　・懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向（修正案）について
2　**地区ごとの話し合いと全体共有**
　・復興まちづくりの具体的な取組み方向案について
3　**今後の進め方について**

７月８日（木）、29 日（木）両日 18 時から、町内会長宅で開催しました。（参加人数：20 名、22 名）

７月 29 日（木）18 時から、中原ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰで開催しました。（参加人数：９名）

復興まちづくり計画の策定に向けて

地区別懇談会での検討をもとに、10 月頃を目途に具体的な復興まちづくりの取組をまとめた**「復興まちづくり計画」**を策定します。

◆地区別懇談会の参加方法

・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
　※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただきます。
・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。多くの方のご参加をお待ちしております。

参加募集中

◆地区別懇談会の進め方

次回の開催予定
中林町・下林町：第５回 ９月 15 日(水)18 時 30 分より　中原コミュニティセンター
温　　泉　　町：第６回 ９月 15 日(水)18 時 30 分より　町内会長宅

※ 温泉町では懇談会の前に**「まち歩き」**(1 時間程度)をします。
参加可能な方は 16 時 30 分に町内会長宅に集合してください。

次回のテーマ予定：復興まちづくり計画（素案）について
（注）地区別懇談会については、新型コロナウィルス感染症の状況等で、変更する場合があります。

◇復興まちづくり計画とは

・復興計画を実現するために取り組むべき内容を示すものです。
・特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
・住民主役の計画づくりに対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
・計画期間は、令和４～9 年度の概ね６年間。（令和３年度からの一部実施も想定）
・本計画に基づき、関係者調整含めた精査や具体化検討を進め、段階的な実現をめざします。

【温泉下林地区】『復興まちづくりの方向(修正案)』について　～第 4･5 回懇談会の意見概要②～

□は方向案の柱です。黄色網掛け箇所が第 4･5 回地区別懇談会における参加者の主な意見です(※決まった内容や事実確認をした内容ではありません)。

温泉下林地区　復興まちづくりの方向（修正案）

取組みの柱		具体の取組み（案）
①被災者のくらし再建とコミュニティの再生	【住まい再建】	**□安全性を高める建て方の誘導** ・水害の経験により、建築して良いか迷う。将来ビジョンが必要。 ・宅地はそのままで道路だけ嵩上げするのなら反対(宅地は各自でするしかないのか)。 ・市の出張相談窓口を設置し、担当部署へつなぐ仕組みがあると良い。 ・治水対策による安全性をもっとアピールしないと、人は帰ってこない。
	【コミュニティ再生】	**□コミュニティの核としての集会所の再建** ・300 坪の土地の寄附話があり、コミュニティの場の再建に活用し避難所としての活用も考慮する。 ・災害前、老人福祉センターは高齢者の拠点となっていた。施設を充実させ（避難所兼温泉場・娯楽場）、3階建にすれば、温泉町に人が来て潤うのではないか。 ・避難タワーではなく、温泉を活かしてコミュニティ施設として整備すれば良いのではないか。行政が整備し、地元が運営すれば有効な施設になるのではないか。 ・集会所は他の場所に再建するよりも今の場所の方が近く、人も集まりやすく逃げやすい。 ・空き地になっている所を手入れし、景観、まちなみづくりにつなげる。 ・市下水道課がグラウンドゴルフ場を復旧したが不十分で、ボランティアに泥やゴミの除去をお願いしている。もっときれいにしてほしい。 ・地域行事に関連付けた自主防災組織の強化・活動の活性化。
②力強い地域経済の再生	【生業再建】	**□観光資源としての温泉の復活** ・温泉町には温泉を作ってほしい。泉源は温泉神社にある。下林町、中林町の人からも「温泉町に温泉を復活させてほしい」という声がある（今は温泉町の持ち物ではない）。 **□農地の再生** ・圃場整備と合わせて、避難路整備や避難場所の整備ができると良いのではないか。農道の拡幅整備も、できるのではないか。 ・田んぼの空いているところに盛土して避難タワーや高台を作ってはどうか。 ・農地復旧は効率的にすべき。農地整備との調整を早くするべき。地権者への説明会を行い、協力を求めてはどうか。
③災害に負けないまちづくり	【避難対策】	**□村山公園への避難路の整備** ・建築中のアパートが道路際まで来ており、通行に支障が出るのではないか。 ・農業用水路に「蓋を掛け道が広がる」と約 20 年前に市から聞いたが、蓋は未だ掛かっていない。どうなっているのか。 ・宅地や道路の舗装は浸透するもの(透水性舗装)を周知・啓発するべきではないか。 **□安全な避難場所の整備** ・避難時に川沿いには行きたくない。 ・避難タワーはバリアフリーを考えるとスロープだけでなく、エレベーターやリフトも必要となるのではないか。 ・3階建コミュニティ施設を作るのは良いが、避難タワーは賛成ではない。 ・「水が来るまで」、「水が来てから」に分けて避難を考える。早く避難するため道路を拡げる。 ・緊急避難所としての利用に関わる覚書締結(林保育園や堤病院などと)。 ※避難タワーに求められる機能の整理・理解促進 ・車を使って避難する際の避難所の確保(直売所、ニシムタ、中原小などの利用)。 **□防災情報の伝達機能強化** ・情報提供が重要。市からの情報がないと行動しない人もいる。 **□地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成** ・ライフジャケットを市民に配布してはどうか。 ・早く(前日から)逃げる。車椅子や寝たきりの人を避難させる人を決めておく(名簿事前作成)。 ・市の出前講座(防災関連講座)の活用、防災意識の醸成(早期の避難行動)。
	【治水・土砂災害対策】 【復興まちづくり】	**□小河川の氾濫対策の推進・促進** ・ポンプ場で小河川の水を拾う。支川(福川、出水川)の土砂撤去。 **□流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下** ・堤防対策の明文化。安心の目安としてビジョンを示してほしい。 ・比較的古くにできた堤防を修復・更新できると良い。 ・如何に早く、まちが球磨川に浸からないようにするかが重要。

◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線：8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

【温泉下林地区】これまでの地区別懇談会意見を踏まえた『復興まちづくりのイメージ（案）』について

～第４・５回懇談会の意見概要①～

黄色網掛け箇所が第 4･5 回地区別懇談会における参加者の主な意見です(※決まった内容や事実確認をした内容ではありません)。

■道路の拡幅は全部できるのか？

■ハード整備はコストも必要なので、一番必要な整備をする。
■ソフト整備は避難支援名簿を作り、逃げることを決める。

■万江川の水が増える前に、早期避難で中原小学校や原田方面へ。

■イチョウの木の枯葉が溜る。

■道路が狭くさらにカーブし見通しが悪く、離合のために、かなり下がって待機する必要がある。

■市が早く方針を示さないと、老人福祉センター周辺一帯の土地が民間事業者のものになってしまうのではないか。

■道路際に建物を建てる建設工事が始まっており、通行に支障を来たすことになるのではないか。

■温泉施設は残してほしい。地元で管理できると良い。

■放送用マイク設備がここにある。逃げられなくなった時に避難できるようにしておくと良い。

■翠嵐楼には大型バスが出入りする。球磨川下りのバス･トラックも出入りする。道路が狭いと右往左往する。

■道路廃止。廃止した分を新設道路用地に充てる。

■「土地を観音堂に寄附しても良い」という話があり、これを使うと道路を現状の約 1.5m から約 2～3m に拡幅できる。

■日本財団の「みんなの家」をつくり、桜の木を植えたい。

■オキナザクラが 300 株くらいあった。全滅したが再生したい。

■橋の幅員が狭い。

■道路より土地が低く、土手になっていて自動車が脱輪する。農地の地権者と話をして、道路との境界部に立ち上りをきっちり整備してほしい

温泉下林地区（温泉町） 復興まちづくりのイメージ（案）

■田んぼダムとあわせて、山の保水力の維持も重要。

■避難する途中に避難タワーがあると良い。

■消防車が通れるくらい広くする。

■頻繁に水が溜る。

■薩摩瀬からも使える場所に高台があれば良い。

■農地復旧との調整が必要。農地の整備と合わせて、避難路整備や田んぼダムになるよう畔を高くできると良い。

■田んぼの空いている所に避難路、避難タワー、高台をつくれると良い。

■親水公園だと思っていたが、地元の思いとギャップがあるのではないか。

■雨水の水路整備が必要ではないか。

■福川から西へ低くなっている。南北にはもっと低い。

■土地が低い。

■通称“180m道路”は、低く雨水が溜るので側溝が必要。大柿～薩摩瀬に橋がないから、橋を架けるという話が過去にあった。

■球磨川と同じ堤防高にできると良い。球磨川より 1.5m低い。

■堤防の差がある所から流入した。

温泉下林地区（中林町・下林町） 復興まちづくりのイメージ（案）：避難場所

■中林会館。

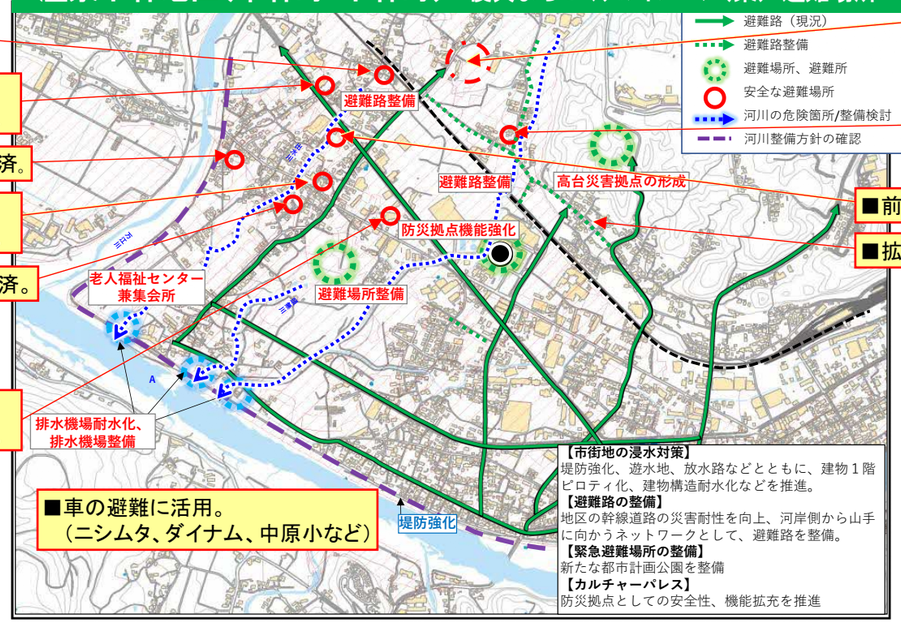
■燕商工保育園。
緊急避難に活用検討。

■後村町内会館➔改修済。

■林保育園2階。
緊急避難に活用検討。

■仮屋町内会館➔改修済。

■堤病院5階。
緊急避難に活用検討。



■車の避難に活用。
（ニシムタ、ダイナム、中原小など）

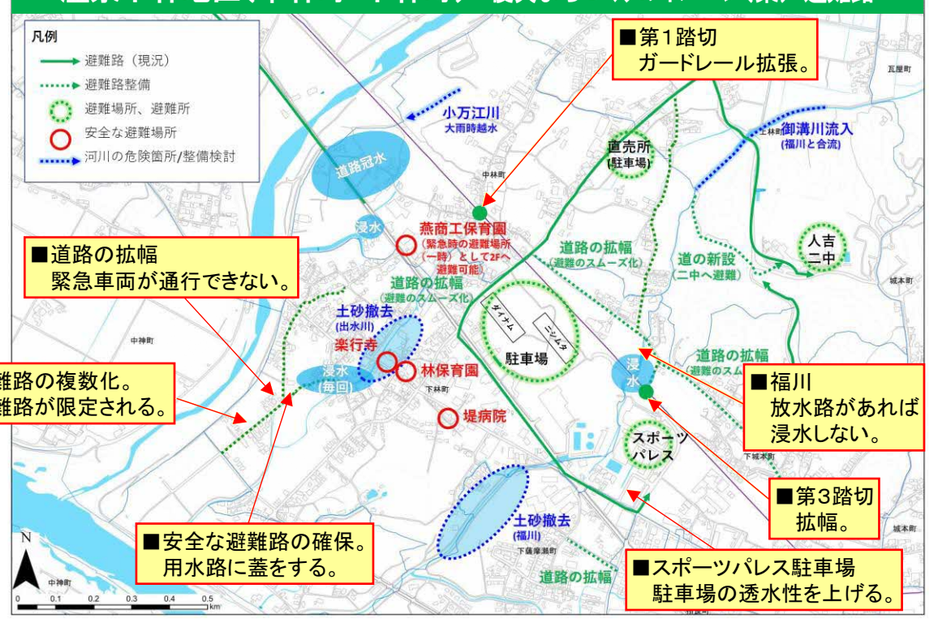
■車の避難に活用。
（中林町会で覚書取り交わし済）

■なごみの里。
水害時の避難所として使用許可を得ている。

■前村町内会館➔改修済。

■拡幅し、避難路を確保。

温泉下林地区（中林町・下林町） 復興まちづくりのイメージ（案）：避難路



■第１踏切
ガードレール拡張。

■道路の拡幅
緊急車両が通行できない。

■避難路の複数化。
避難路が限定される。

■福川
放水路があれば浸水しない。

■第３踏切
拡幅。

■安全な避難路の確保。
用水路に蓋をする。

■スポーツパレス駐車場
駐車場の透水性を上げる。

温泉下林地区　復興まちづくり計画（案）【方針・取組み】

資料４

地区の将来像（案）：川と共存し地域資源を活かした助け合いで築くまち

：前回の意見を反映した事項

取組みの柱	地区の主な課題 （地区の復興まちづくりに向けた主な課題）	取組み方針 （課題解決のための取組み方針の柱）	具体の取組み（案） ※実現化に向け、今後検討が必要
①被災者のくらし再建とコミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】	**□住まい再建にあたっての方向性が必要** ・再建の目途が立たないと避難の話ができない。 ・住まいを再建したが、まちづくりにどう係わるのか。 ・地形的に低く、嵩上げなど抜本的な対策をしないと水害による被害はなくならない。 **□集会所とコミュニティの再生が必要** ・温泉があれば人が集まり、地域コミュニティが維持できる。 ・集会所を早く復旧させたい。コミュニティ崩壊が懸念される。 ・仮設にいる人も祭に参加すれば元気になれると思う。	**□住まい再建における安全性の向上** ・地区の特性を踏まえた住まい再建の方向性や安全性の向上の方策を検討する。 **□集会所の再建とコミュニティの再生** ・コミュニティの核となる施設の再整備。	**□安全性を高める建て方の誘導（例）** ・ピロティ化、耐水化住宅、地区内移転など ・道路だけでなく、宅地と合わせた嵩上げ **□コミュニティの核としての集会所の再建** ・コミュニティ施設としての再整備 ・温泉とコミュニティ施設、避難所を一体化した施設の整備 ・市が整備し施設を管理、地元で維持・運営
②力強い地域経済の再生 【生業再建】	**□地域の温泉と観光の再生** ・温泉を活かしたまちの復興が必要。 **□早急な農地の再生** ・高齢になり、農地整備ができなくなった。 ・荒れ地に手を入れないと、野生動物が住み着く。	**□観光資源である"温泉"を活かしたまちづくり** ・温泉の泉源は残っており、温泉を交流の場として活用し、地域活性化につなげる。 **□農地の再生による生業の再建** ・田んぼダムや営農意向のない農地の集約化	**□観光資源としての温泉の復活** ・コミュニティ施設と合わせた温泉の再生 **□農地の再生** ・田んぼダムとしての活用
③災害に負けないまちづくり 【避難対策】	**□安全な避難ルートの確保** ・老人福祉センター付近の道が狭く離合できない。 ・スポーツパレスから村山までの避難路が必要。 ・万江川の橋を渡って避難するのは難しい。 ・高齢者にとって30分の避難は難しい。 **□避難施設の確保・改善** ・避難タワーなど、垂直避難できる場所が必要。 ・避難所での食料の確保が必要。 **□適切な情報発信** ・避難所での適切な情報発信が必要。 ・排水ポンプ場から情報発信できないか。 **□避難時に機能する仕組み・体制の構築** ・高齢者に対する支援が必要。 ・一斉に車で避難したため、渋滞した。 ・夜間の投光器や救助のためのボートがあるとよい。	**□安全な避難路の整備** ・避難所までの安全な避難路の整備を進める。 **□避難所の機能拡充** ・避難所における食料や日常生活用品の備蓄等の機能強化、適切な情報提供等の運用改善を図る。 **□緊急避難場所の整備** ・徒歩圏内での緊急避難場所を整備・指定する。 **□適切な情報発信の実施** ・正しい情報を迅速に伝える。 **□全員が避難できる仕組みづくり** ・小河川の氾濫や避難にかかる時間を考慮した早めの避難。 ・高齢者など要支援者の避難行動を支援する仕組み・体制づくり。 ・避難時の移動手段の検討。	**□安全な避難路の整備** ・スポーツパレスから村山公園への避難路整備。 ・避難路のネットワーク形成（離合できるもの） ・水路に蓋をして、道路を広くする。 **□安全な避難場所の整備** ・地区内の安全な建物を避難場所に指定 ・避難タワー、高台等、徒歩圏内で安全に避難できる場所を整備。（薩摩瀬地区の住民も使える場所に） ・水が来る前の避難、来た後の避難を分けて考える **□防災情報の伝達機能強化** ・正しい情報を迅速に伝える手段の確保（防災ラジオ等） **□地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成** ・地区防災計画を作成し助け合いのシステムを構築（要支援者を避難させる人を決める。連絡網の作成） ・マイ・タイムラインを作成し災害発生時に備える
【治水・土砂災害対策】 【復興まちづくり】	**□小河川の氾濫等** ・出水川、福川には内水排除施設がない。 ・頭無川の排水ポンプが上手く機能しなかった。 **□球磨川の治水対策** ・球磨川に土砂が堆積している。 ・球磨川の堤防の嵩上げが必要。 ・ダムのない自然の川がよい。山の保水力が低下している。	**□小河川の氾濫対策の推進・促進** ・放水路、排水機場等耐水化、低未利用地を利用した浸透・雨水貯留施設等による内水対策を進め、被害の軽減や避難時間の確保を図る。 **□流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下** ・国、県による流域治水の取り組みと連携したまちづくりの実施	**□小河川の氾濫対策の推進・促進** ・排水機場等耐水化、放水路、浸透・雨水貯留施設等整備 **□流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下** ・河川の浚渫、堤防強化等

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくり計画（案）です。具体の取組み（案）は、決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。

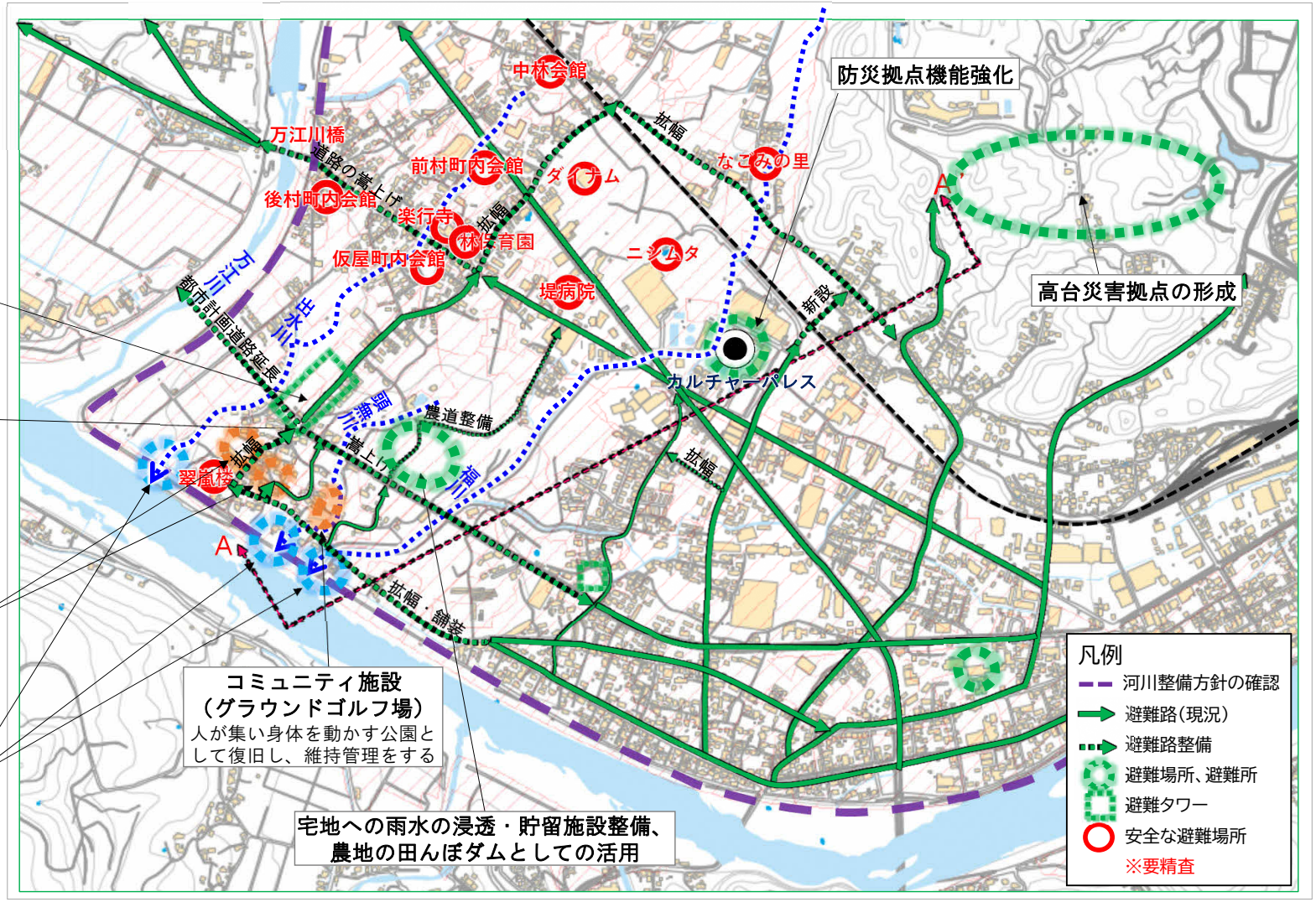
温泉下林地区　復興まちづくり計画（案）【広域図・避難ルート図】

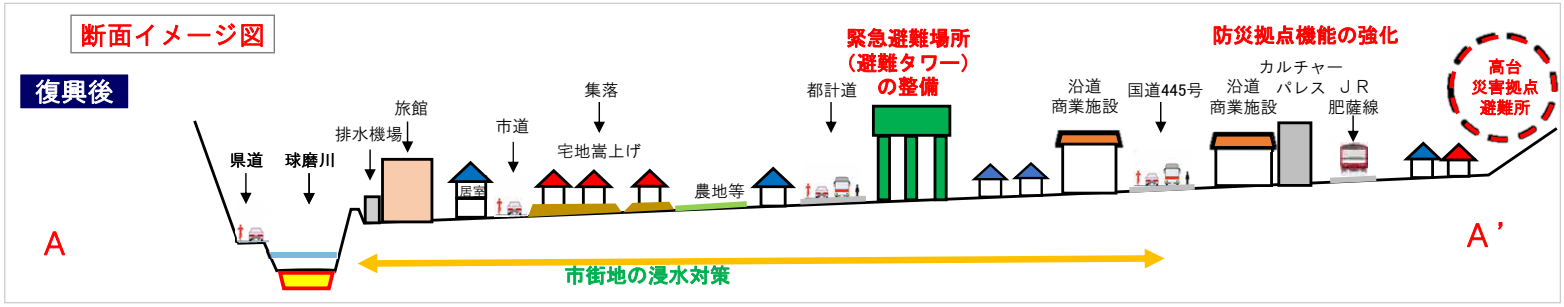
緊急避難場所整備
避難路沿いで、2方向避難の分岐近くに、逃げ遅れた際に逃げ込める想定最大規模以上の避難タワーを整備する。

避難路整備
早めの多方向避難が可能となるよう避難路となる道路の拡幅・嵩上げを行う。

コミュニティ施設（温泉施設、集会所）
既存施設を再生し温泉を活かした交流の場を設けるとともに、集会所・駐車場を整備する

小河川の整備、排水機場整備、耐水化
小河川の雑草等を定期的に撤去し、清らかな水辺環境を維持するとともに、各小河川の排水機場の整備・耐水化を促進する。





※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくりのイメージ（案）です。具体の取組み内容は、決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。

温泉下林地区　復興まちづくり計画（案）【地区整備方針図（温泉町）】

避難路整備
早めの多方向避難が可能となるよう避難路となる道路の拡幅・嵩上げを行う。

緊急避難場所整備
避難路沿いに、逃げ遅れた際に逃げ込める想定最大規模以上の避難タワーを整備する。

避難タワーのイメージ（高知県黒潮町）

コミュニティ施設（温泉施設、集会所）
既存施設を再生し温泉を活かした交流の場を設けるとともに、集会所・駐車場を整備する。

小河川の整備、排水機場整備、耐水化
小河川の雑草等を定期的に撤去し、清らかな水辺環境を維持するとともに、各小河川の排水機場の整備・耐水化を促進する。

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくりのイメージ（案）です。具体の取組み内容は、決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。